

令和4年度WAM助成事業 活動成果報告書 NPO法人ねっこぼっこのいえ



事業内容

◆事業名 地域の居場所「多世代型交流サロン」と連動した相談支援事業

◆事業内容

柱1 多世代型交流サロン(地域子育て支援拠点)と連動した相談支援事業

柱2 ねっこアフターと学さぼを相談支援事業の窓口として整備する

◆事業に至った経緯/目的

家庭内、あるいは個人レベルでの多種多様で複合的な悩みを抱えた要支援者が、様々な事情で有効な社会資源に繋がることができないケースが多いという福祉制度上の課題が指摘されている中、多世代型交流サロンという当団体の日々の活動と連動して相談を受け、単に情報を伝えるだけではなく具体的な支援にしっかりと繋がるまで、個々のケースに合わせてサポートする『オーダーメイドな相談支援事業』の必要性を感じ事業化に踏み切った。コロナ禍にこの課題は顕著となり、特に既存の福祉制度での中間支援の弱さが露呈した。困難や生きづらさを抱える人やその家族が地域の中でその人らしい生活を継続できるための支援を確実に受ける仕組み作りを模索し実践することを目的として本事業を計画し運営した。

成果

ひろば参加者、ねっこアフター/学さぼ/夏・冬の小学生企画に繋がった参加者、チラシやSNS等で事業を知った方々の相談ごとに丁寧に関わることができた。中でも当団体に長く関わってきている家族や個人の困りごとには、長年の信頼関係に基づいて、ステップをゆっくり昇る様に都度必要に応じて寄り添い、サポートに繋ぐことができた。また、必要な関係機関と顔を見知った関係を作ることができ、フォーマル・インフォーマル含め日常的に声を掛け合い要支援者を見守る体制づくりの重要性を確認できた。特に新規事例に関しては、コロナ禍でどこにも出向けず相談受付そのものも閉じられた状況で追い詰められ方に対して寄り添うことができた。

【相談支援実績】



小学生企画 若者世代との縦の交流の場を創出。縦世代間の受容と共感の中で居場所としての安心感を生み出した。この企画後ひろばに繋がる子もいた。



ねっこアフター、卒業のお祝いの日、地域の方とのつながりも出て卒業を迎える子たちに向けて手作りのお祝いが届けられた。

ケース対応	年間
相談 対面	53
電話	89
LINE	214
メール	6
同行支援	53
書類サポート	9
訪問	8
ケース会議	3
関係機関連絡調整	80

事業のふり返し/今後の課題や展望

この事業は、2020年度より自主事業として開始し今年度は16件の案件を扱った。21年度から福祉分野で実績あるスタッフを迎え、22年度は専門分野の視点からの指摘を受け、当団体で関わろうとしている支援について体制や運営の面から検討し整理を重ね続けた。地域子育て支援拠点のひろばで実施を義務付けられている“相談と支援”は各団体の裁量であるうえ、当団体は多世代多様な人々が集まることから必然的に支援対象に広がりが出る。そのため中間支援を充実させるためには一団体で抱え込まず、他機関とのネットワークをいかに構築し得るかが鍵となるという気付きがあった。また、経済的・人的に脆弱な運営から脱却して利用者が困らぬ継続可能な支援体制を構築することが今後の課題であり、そのための方向性を示された1年であった。さらに、利用者・相談員双方を守るために、民間団体として相談を受ける際の基本的なルール作りについての検討も重ねることができ、継続課題を次年度に引き継いだ。